

◇-----◇
下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2011.7.5

下水道機構の『新技術情報』 第3号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>

◇-----◇

今年も早くも猛暑日がやってきました。今年も電力不足もあいまって、知恵と工夫で暑さを乗り切らなければなりませんね。機構のある水道町 ビルの前には神田川が流れていますが、風が川面をそっとやさしくなでる様子を見ているとふっと涼しくなるような気がします。体感だけではなく、心で涼をとってみるのも暑さ対策になるのではないのでしょうか。

さて、今週も『新技術情報』第3号をお届けします。業務に **Tea Break** にどうぞご活用ください。

～トピックス～

☆インフォメーション

- ・第44回理事会が開催され、役員（会長・理事長・専務理事）が選任されました
- ・研究第一部の職員の異動がありました
- ・技術サロンの開催！今月のテーマは「東日本大震災に学ぶこれからの防災のあり方」、群馬大学大学院の片田教授をお招きします！

☆機構の動き

- ・今週は平成23年度第1回水処理新技術実用化評価委員会(主な議題「昨年度からの継続案件：2件、新規案件：1件の合計3案件についての技術審議」)が開催されます

☆Tea Break

- ・「情報公開」(研究二部 金盛さんの投稿です)

☆みなさまからのコラム

- ・皆様からの情報をお待ちしております
メールマガジンに掲載したい情報のコラムや、メールマガジンのご感想・ご意見などな

ど

、お気軽に情報をお寄せください。

☆国からの情報

- ・7月4日付けの下水道ホットインフォメーションです

.....
インフォメーション (最新の話題です)
.....

○平成23年7月1日に当機構の第44回理事会が開催され、理事の互選により役員（会長・理事長・専務理事）が選任されました。

会長には鹿島建設(株)専務執行役員の村田暁昭氏が、理事長には(財)下水道新技術推進機構の石川忠男氏が、専務理事には(財)下水道新技術推進機構の江藤隆氏が選任されました。任期は平成23年7月1日から平成25年6月30日までです。また、今回の理事会では、東日本大震災における当機構の取り組みとして、被災地支援や下水道施設の地震・津波対策技術、液状化による下水道管路被害、下水道における放射性物質の挙動に関する調査・検討状況が、また、新公益法人制度における検討状況が報告されました。

○6月30日と7月1日付けで研究第一部の職員の人事異動がありました。

6月30日付けで、研究第一部研究員の金盛高之氏が出向元の(株)建設技術研究所に、同じく研究第一部研究員の山賀秀昭氏が出向元の日本水工設計(株)に戻られることとなりました。金盛氏は当機構ではストックマネジメントに関する調査研究を主に担当され、山賀氏は下水道クイックプロジェクトの調査研究を主に担当されました。これらは今後の下水道事業における重要なテーマであり、二人の成果の活用、充実が期待されます。また、7月1日付けで日本水工設計(株)から阿部善成氏が研究第一部の研究員として着任されました。調査研究等において、関係する皆様方と一緒に仕事を行うこともあろうかと思えますので、新しいメンバーも含めてどうぞ よろしく願いいたします。

*****阿部さんからメッセージを頂きましたので掲載します*****

7月1日付けで日本水工設計から出向となりました、阿部善成（あべよしなり）と申します。お世話になります。親元では処理場や中継ポンプ場などの箱ものの実施設計を3年3か月、その後に計画業務を1年経験しましたが、まだ社会人5年目の駆け出しです。まだまだ未熟で皆様にはご迷惑おかけすることも多いかと思いますが、何卒よろしく願いいたします。

※本日は出向3日目ですが、既に年報報告会という崖の淵に立たされてあたふたしています。昨晩は、報告会までの時間を、できる限り原本の報告書を読む時間にするか、それ

とも必死に謝る練習をする時間にするかを悩みました（笑）基本的に明るい人間と思っていますので、気軽に話しかけていただくと大変うれしいです（^ 0 ^）よろしくお願いたします。

○技術サロンの開催！今月のテーマは「東日本大震災に学ぶこれからの防災のあり方」、群馬大学大学院の片田教授をお招きします！

下水道機構では毎月第2木曜日に、地方公共団体及び民間企業等の技術者を対象として「技術サロン」を開催しております。今月は7月14日（木）17:30～19:00に当機構の会議室（東京都新宿区水道町）にて開催いたします。

今回のテーマは、「東日本大震災に学ぶこれからの防災のあり方～今求められる命を守るための防災への転換～」で、講師にはこの分野でご活躍されている群馬大学大学院の片田教授をお迎えします。先生からは、現地での活動等を通して大変興味深いお話がお聞きできると思っております。

1時間半ほどの短い時間ですが、この最新情報に触れてみませんか？当機構近郊への出張のお帰りの際のご参加も歓迎いたします。なお、参加費は無料です。会場の都合から定員は80名となっておりますので、お気をつけください。

参加申し込みは、下水道機構のホームページから直接可能ですので、以下のURLをご覧ください。

<http://www.jiwet.jp/school/school-07-295.htm>

機構の動き （機構の行事予定です）

◎7月7日（木）14:00～17:00

平成23年度第1回水処理新技術実用化評価委員会（機構特別会議室）主な議題、昨年度からの継続案件：2件、新規案件：1件の合計3案件についての技術の審議

○7月14日（木）17:00～19:30

第295回技術サロン（機構8F会議室） 講師；群馬大学大学院教授 片田敏孝、
テーマ 「東日本大震災に学ぶ これからの防災のあり方～今求められる命を守るための防災への転換～」

○7月15日（金）15:30～17:00

平成23年度第1回新技術設計手法等共同研究委員会（機構8階会議室）（主な議題「リ

スク管理を考慮した監視システムに関する共同研究の審議」)

○7月20日(水)15:00~17:30

平成23年度第1回管路技術共同研究委員会(機構特別会議室)(主な議題「衝撃弾性波法による管路診断技術に関する共同研究及び下水道マンホールふたの調査・診断・更新に関する共同研究の審議」)

○7月26日(火)~7月29日(金)

下水道展への出展(パブリックブース)及び下水道研究発表会での発表(14編)

『下水道展 '11 東京』ホームページはこちら↓

www.gesuidouten.jp/

Tea Break (機構職員の感じるまま)

○情報公開(研究第二部研究員 金盛)

研究第一部 研究員の金盛です。

ストックマネジメント、アセットマネジメントが主な研究テーマです。下水道機構では、地方公共団体等にマニュアルや技術資料を公開しました。手前ミソになりますが、非常に良い試みだと感じました。情報を抱えて外に出さないのは、もったいない。情報は、外に出して、使って磨いていくべきものと考えています。それによって情報のバックアップになったり、様々な反応が返って来たりします。

ストックマネジメント等では、施設に関する情報が重要となります。よく、他都市の事例はどうですか?と質問されることがありますが、大抵は公表されていないため、守秘義務の関係から、知っていても口を濁してごにょごにと歯切れの悪い答えをせざる得ない場面が多いのが残念です。みなさんは情報を欲しています。地方公共団体から、施設に関する情報をもっと公開・共有され、みんながHappyになれることを願いつつ研究に取り組んでいます。

みなさまのコラム(皆様からお寄せいただいた情報です)

○掲載情報募集中!

機構の新技术情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。

情報提供はこちらまで→ jiwet@jiwet.or.jp

※原則 400 字以内。なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本として
い

ますが、掲載の可否は当機構にて判断させていただきます。

下水道ホットインフォメーション (2011.7.5 付、国からの最新情報です)

送信元： 国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道事業課企画専門官 石井宏幸

イチッ、ニッ、サンッ、シッ、ALSOKッ！ 下水道部の井上康生こと山口係長（下水道企画課）が2年3ヶ月の荒稽古を終え、7月1日付で環境省に戻られました。と
いうことで、恒例のメッセージを山口さんから頂戴しました。今後もますますのご活躍を！ 今
週は情報も盛りだくさんです。情報を頂いた方々、ありがとうございました。

=====

7月1日付けで環境省に異動することになりました、下水道企画課資源利用係長の山口裕
司と申します。2009年4月20日に下水道企画課に赴任して以来、約2年と3ヶ月弱、下
水汚泥のリサイクルや温暖化対策を主な業務として担当させていただきました。環境省か
らの出向者である自分は、下水道事業のスケールの大きさにただ驚くばかりで、あっとい
う間の2年間でした。このメールを配信している、石井・前・下水道技術開発官と白崎・現・
下水道技術開発官の厳しい、千本ノックのような指導のもと、自治体や関係者の方々と緊
密な連携のもと仕事できたことは自分にとって、大変貴重な経験です。この間、A-J
UMP、B-DUSHのマリオシリーズや、リン資源化、都市再生法の改正、固形燃料の
税制、そして、震災・放射線対応と様々な分野に係わってきました。どれをとっても、
これからの下水道の可能性を予感させる非常に重要な分野で、このような歴史に残る業務
に関われたことを非常に光栄に思います。ただ、やり残したことも多く、まだまだこれか
らというところで、下水道部を去るのは非常に残念ですが、新しい資源利用係長が活躍し
てくれると思っています。7月からは、環境省に戻ることにありますが、下水道部で学ん
だことを環境行政に生かせるよう頑張りたいと思います。2年3ヶ月間、大変お
世話になりました。

=====

★★★★★ 今週のラインナップ ☆☆☆☆☆

○国土交通省水管理・国土保全局発足!!

○『下水道への膜処理技術導入のためのガイドライン [第2版]』ついに発刊!

- グリーン投資減税が開始！
- NHK スペシャルで液状化が取り上げられます!!
- J S 技術開発情報メール再開のお知らせ!!!
- 群馬大学大学院の片田教授をお招きして技術サロンを開催！
- 土木学会誌で上下水道インフラの国際展開を特集！
- 第 13 回下水道循環のみちセミナーを開催

○国土交通省水管理・国土保全局発足!!

7月1日、下水道部と河川局、水資源部が統合し、新たに「水管理・国土保全局」が発足しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo04_hh_000044.html

○『下水道への膜処理技術導入のためのガイドライン [第2版]』ついに発刊！

【担当：下水道企画課】

膜処理技術については、2009年5月に『下水道への膜処理技術導入のためのガイドライン [第1版]』が公表されていますが、それ以降、「日本版次世代 MBR 技術展開プロジェクト (A-JUMP)」が実施されるなど、知見の集積も進んできました。下水道膜処理技術会議(委員長：山本東京大学教授)では、A-JUMP の成果もふくめ、特に、コスト情報と維持管理情報を充実させて、『下水道への膜処理技術導入のためのガイドライン [第2版]』をとりまとめましたので、公表いたします。

膜処理技術は、中大規模処理場の改築更新時や高度処理化を行う際には有力な選択肢になると考えられておりますので、ご検討の際には、本ガイドラインを是非ご活用下さい。

※本省下水道部HPに掲載されましたのでご覧ください。

リンクはこちら↓

本編：<http://www.mlit.go.jp/common/000146906.pdf>

別冊：<http://www.mlit.go.jp/common/000146907.pdf>

○グリーン投資減税が開始！【担当：下水道企画課】

6月30日から、下水汚泥固形燃料貯蔵設備に係る法人税の特例措置を含むグリーン投資減税が開始されました。平成26年3月31日までの3年弱の間が適用期間です。エネルギー環境負荷低減推進設備等の取得等をして1年以内に事業の用に供した場合には、取得価額の100分の30相当額の特別償却(中小企業者等については、100分の7相当額の特別税額控除との選択適用)ができます。また、この減税では下水汚泥固形燃料貯

蔵設備が対象となっています。

○NHK スペシャルで液状化が取り上げられます!!

「東日本大震災関連“世界最大”の液状化～震災4か月でわかった新事実～（仮）」

7月10日(日) 午後9時00分～9時49分 総合テレビ ～

以下、番組HPより～

震災では「液状化現象」でも大きな被害が出た。東京湾の沿岸部だけでも東京ドーム9000個分に相当する約4200ヘクタールで液状化が起きた。住宅被害は関東地方だけで約1万7000棟。液状化による被害規模は”世界最大”といわれる。震災から4か月が経ち、これまではわからなかった液状化被害や、二次災害の危険性、対策を講じる難しさなどが次々に明らかになってきている。こうした新事実は、被災地の復興計画や、日本各地の地震防災計画にも大きな影響を与える。震災から4か月でわかった新事実をもとに、「液状化」に備えるために今何が必要かを探る。

<http://www.nhk.or.jp/special/onair/110710.html>

●J S 技術開発情報メール再開のお知らせ!!!【日本下水道事業団より】

J Sでは、組織再編に伴い3月で一時休止していた技術情報メールマガジン「J S 技術開発情報メール」を7月4日 No.114号から再開しました。J Sの技術戦略部から技術情報をお知らせするとともに、時節の話題、J Sの他部署の情報も盛り込んだ内容でお届けします。

本メルマガは、登録いただいた地方公共団体の方々向けに配信しております。新規に登録を希望される方は、gikai@jswa.go.jpへ「メルマガ希望」とご連絡ください。

なお地方公共団体以外の方も、日本下水道事業団HPからバックナンバーをご覧ください。

http://www.jswa.go.jp/gijutu_kaihatsu/g_shiryou/merumaga/merumaga_back/merumagaback.html

●土木学会誌で上下水道インフラの国際展開を特集！【土木学会より】

毎月発行されている土木学会学会誌では7月号の特集として「上下水道インフラ分野における国際展開に向けて～わが国が水メジャーになるために～」と題する特集を組んでいます。欧州の巨大企業や台湾、シンガポール企業が台頭する中、後発となったわが国の水産業界が世界の水メジャーに分け入って市場を獲得することが出来るようになるための戦略と現在の取り組みについて紹介

を行っています。座談会では国土交通省下水道

部加藤調整官にもご出席頂き、貴重なご意見を拝聴しております。

上下水道分野を土木学会誌として取り上げることはほとんど無く、今回の特集を通して、

土木業界全体及び土木を志す学生諸氏へ、上下水道インフラについて広く情報 発信していければと願っております。

<http://www.jsce.or.jp/journal/thismonth/index.shtml>

●第 13 回下水道循環のみちセミナーを開催【日本下水道施設業協会】

今回は、神奈川県から横溝課長を講師にお招きし、神奈川県の流域下水道の現状や今後の事業の方向性を定めた中期ビジョンのお話を伺い、今後の下水道循環のみちを実現するための意見交換の場としたいと思います。

テーマ：「神奈川県流域下水道の中期ビジョン」

講師：神奈川県 県土整備局 河川下水道部下水道課長 横溝博之様

日時：平成 23 年 8 月 1 日（月） 午後 3 時 30 分～6 時

場所：日本下水道施設業協会大会議室

東京都中央区新川 2-6-16 馬事畜産会館 2 階

申し込み方法 (1)施設協ホームページ (<http://www.siset.or.jp/>) から申込用紙をダウンロード

(2)所定の事項を記入の上、FAXにて7月26日までに

※申込み多数の場合は、締め切り前でもお断りすることがあります。

お問い合わせ：(社)日本下水道施設業協会 河野 電話 03-3552-0991

なお、第 12 回研究会までの講演概要を施設協ホームページに掲載してありますのでご覧下さい。

<http://www.siset.or.jp/contents/?CN=322>

がんばろう！日本

◆◆◆◆ 東日本大震災関連 ◇◇◇◇

◎今週のトピック 1 ～広野町で簡易処理開始！～

福島第一原発の影響で緊急時避難区域に指定されている福島県広野町の広野浄化センターにおいて、簡易処理（沈殿＋消毒）による応急対応が開始されました。

◎今週のトピック 2 ～

千葉県習志野市で、被災していた幹線管きよの仮配管工事が終了し、津田沼浄化センター（県管理）につながりました。これにより、菊田川の簡易処理施設は 6 月 30 日をもって稼働終了。

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/chiba/news/20110701-OYT8T01183.htm>

○下水道施設被害状況（7月4日時点）

下水処理場 | 震災当初 | 現在

稼働停止		48		16	※1
施設損傷		63		—	
正常に稼働		—		95	※2
不明		9		9	※3

計		120		120	
---	--	-----	--	-----	--

※1 応急対応中 13、準備中 1、汚水発生なし 2

※2 ほぼ通常の処理を含む

※3 福島第一原発周辺

ポンプ場 | 震災当初 | 現在

稼働停止		79		24	※1
施設損傷		32		14	
正常に稼働		—		73	※2
不明		1		1	※3

計		112		112	
---	--	-----	--	-----	--

※1 汚水 3（すべて応急対応中）

雨水 21（応急対応中 10、準備中 5、排水対象なし 6）

※2 ほぼ通常の排水を含む

※3 福島第一原発周辺

下水管きよ

【1次調査（目視調査）】

11 都県の 137 市町村等（すべて調査済）

被害延長/総延長 956km/66,089km

【2次調査（テレビカメラによる調査）】

11 都県の 126 市町村等（うち 2 次調査済 116）

被害延長/総延長 549km/62,687km

※被害状況については国土交通省 HP にも掲載

http://www.mlit.go.jp/saigai/saigai_110311.html

http://www.mlit.go.jp/crd/crd_sewerage_fr_000007.html

【参考情報】

◆大雨：関川で 47 ミリ 床上浸水や道路冠水 5カ所で 6 月の観測史上最大記録 / 新潟
<6/24 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/niigata/news/20110624ddlk15040207000c.html>

◆汚泥の肥料利用に基準、農水省 <6/24 MSN 産経ニュース>

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/110624/biz11062420020041-n1.htm>

◆下水処理場で微量のヨウ素 / 弘前市 <6/25 陸奥新報>

<http://www.mutusinpou.co.jp/news/2011/06/16823.html>

◆東日本大震災：放射性セシウム、下水汚泥で検出 最高 230 ベクレル 栗原 / 宮城
<6/25 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/miyagi/news/20110625ddlk04040130000c.html>

◆東日本大震災：前橋・汚泥焼却灰のセシウム、2万1800 ベクレルと依然高値 / 群馬
<6/25 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/gunma/news/20110625ddlk10040125000c.html>

◆県施設も保管限界 / 栃木 <6/26 朝日新聞>

http://mytown.asahi.com/tochigi/news.php?k_id=09000001106260001

◆本格復旧には課題山積 習志野市、排水制限も解除へ 下水管、今月末で応急工事完了
<6/27 千葉日報>

http://www.chibanippo.co.jp/news/chiba/local_kiji.php?i=nesp1309137627

◆震災で活躍、マンホールトイレ＝直接下水へ、臭い少なく 宮城・東松島 <6/28 朝日新聞>

<http://www.asahi.com/politics/jiji/JJT201106280006.html>

◆下水汚泥からセシウム 千葉県内4終末処理場 <6/28 千葉日報>

http://www.chibanippo.co.jp/news/chiba/society_kiji.php?i=nesp1309229323

◆オランダが“下水油”を航空機の燃料に、中国に協力を求める

<6/28 サーチナ ニュース>

http://news.searchina.ne.jp/disp.cgi?v=2011&d=0628&f=national_0628_175.shtml

◆島根の汚泥から放射性物質 <6/29 MSN 産経ニュース>

<http://sankei.jp.msn.com/life/news/110629/trd11062913210009-n1.htm>

◆大阪市：エネルギー政策室、あす設置 「再生可能」目指し /大阪

<6/30 毎日 新聞>

<http://mainichi.jp/area/osaka/news/20110630ddlk27010407000c.html>

★下水道事業の手引 平成23年版 好評発売中

http://www.suido-gesuido.co.jp/blog/info/2011/06/post_34.html

～以上、国からの下水道ホットインフォメーションより～



発行元：財団法人 下水道新技術推進機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル 7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方は

こちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせは

こちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

